

郷土の芸術文化史をたどり、庄内にゆかりのある作家を紹介する展覧会「庄内の美術家たち」。シリーズ第19回となる今回は、明治から昭和にかけて活動した庄内の工芸家たちを紹介します。

庄内を代表する工芸には、竹塗や蒔絵などの漆芸と、黒柿細工がありました。そのうち竹塗は庄内藩お抱えの阿部竹翁^{あべ ちくおう}によってはじめられ、飯塚竹真^{いづか ちくしん}〔初代〕や八幡玉清^{やはた ぎよくせい}、三浦孝太郎^{みうら こうたろう}らに伝えられ、現在も続けられています。蒔絵師としては、村上村靖^{むらかみ ぶんせい}や米村米村^{よねむら べいせん}、その子米田^{べいでん}らが早く、その後、田村青畝^{たむら せいほ}や石川古堂^{いしかわ ことどう}、本間舜華^{ほんま しゆんか}といった蒔絵師を輩出しました。黒柿細工に関しては鈴木林治^{すずき りんじ}〔初代〕によってその技術が培われ、その後二代目林治や中山秀邦^{なかやま ひでくに}、小松文吉^{こまつ ぶんきち}・文一^{ぶんいち}といった弟子たちに受け継がれました。

いずれも、現在ではその技術を継承する者は少なく、本展覧会は庄内で活動した彼らの作品を紹介する貴重な機会として、明治から昭和にかけて制作された竹塗や蒔絵などの漆芸と黒柿細工を約40点紹介します。

展示予定作家

- 【竹塗】
 阿部 竹翁^{あべ ちくおう} (1839-1912)
 飯塚 竹真^{いづか ちくしん}〔初代〕 (1870-1934)
 八幡 玉清^{やはた ぎよくせい} (1890-1951)
 飯塚 竹真^{いづか ちくしん}〔二代〕 (1900-1967)
 三浦 玉真^{みうら ぎよしん}〔二代〕 (1927-1990)
- 【蒔絵】
 村上 村靖^{むらかみ ぶんせい} (1825-1876)
 田村 青畝^{たむら せいほ} (1881-1932)
 石川 古堂^{いしかわ ことどう} (1890-1969)
 本間 舜華^{ほんま しゆんか} (1894-1991)
- 【黒柿細工】
 鈴木 林治^{すずき りんじ}〔初代〕 (c. 1845-1930)
 中山 秀邦^{なかやま ひでくに} (1899-1977)
 小松 文一^{こまつ ぶんいち} (1925-2016)



一漆芸と黒柿細工

近代工芸の

粹^{すい}

- 村上村靖「菊花鳥模様飾台」公益財団法人致道博物館蔵
- 石川古堂「松竹梅模様印篋」個人蔵
- 飯塚竹真〔初代〕「竹塗吸物椀」大正12(1923)年、個人蔵
- 田村青畝「菊花鳥模様二重段卓」大正2(1913)年、公益財団法人克念社蔵
- 八幡玉清「葡萄模様青銅漆塗花器」昭和4(1929)年、個人蔵
- 鈴木林治〔初代〕「黒柿細工飾り棚」明治2(1869)年以前、宗教法人善寶寺蔵
- 阿部竹翁「竹塗五段重箱」大正元(1912)年、個人蔵
- 本間舜華「ふるさと 乾漆飾篋」昭和43(1968)年、公益財団法人本間美術館蔵
- 小松文一「黒柿細工 裏」個人蔵



期間中 イベント

ギャラリー・トーク

当館学芸員が会場を案内し、作品解説を行います。

日時◇2月11日(日)、2月25日(日)

各日：①10:00～②14:00～(30分程度)

参加料◇無料 ※ただし、観覧券が必要です。

申込◇不要 当日、会場入口にお集まりください。

【同時開催】

令和5年度鶴岡市所蔵作品展 第4期「冬に生きる人々」

会期◇1月6日(土)～3月31日(日) 時間◇9:00～17:30

会場◇ギャラリー1 常設展示コーナー(入場無料)

【喫茶のご案内】

フォーラムカフェ クルール

展覧会開催中は毎日営業 ※臨時休業の場合あり。メニューなど、詳細についてはホームページをご確認ください。

時間◇10:00～16:00 (ラストオーダー15:30)

鶴岡アートフォーラム

〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町13-3

TEL:0235-29-0260(代表) FAX:0235-22-6051

E-mail:info@t-artforum.net URL:https://www.t-artforum.net



ホームページ



【アクセス】■自動車：高速山形自動車道・鶴岡ICより、鶴岡市役所を目指して約10分／■バス：JR鶴岡駅より「052系統 市内循環 Aコース 左回り」「053系統 市内循環 Bコース 右回り」「055系統 市内循環 Cコース 右回り」「032/033/034系統 湯野浜温泉行」「061系統 あつみ温泉方面行」のいずれかに乗車し、「アートフォーラム前」または「市役所前」バス停で下車(約10分)

※お車でお越しの際は、荘姫タクト鶴岡、公園中央駐車場が最寄です(無料)